



## 家伝の妙薬

相模川は別名「鮎川」とも呼んだぐらいです。昔から鮎で有名でした。以前は禁漁期間もなかったのですが、一年中鮎漁ができませんでしたが、捕った鮎はたいい申刺しにして焼き、いろり近くの天井に保存したものでした。

ある農家の主人が、農作業の後、相模川に鮎釣りに行きました。日が暮れて竿の先も見えなくなってきたので、いざ帰ろうとする

と、河原で泣いている娘がいました。訳を聞くと、今朝、川向こうの厚木から、座間に住む親せきに会うため、漁師の小舟で渡ってきたが、約束の時間になっても迎えの舟が来てない、ということでした。いろいろ話し合っているうちに、有名な家柄の娘であることがわかったので、主人は自分の家へ泊めるつもりで連れて帰りました。

農家のかみさんは、娘の上品な様子を見て、丁重に扱って娘を奥の間に休ませました。そして、仕切の戸を閉めようとすると、「開けておいてください」というので、そのまましておきました。娘が天井ばかり見ているので変だな、と思いました。慣れない床で寝つかれないのだろうと思い主人とかみさんは眠りにつきました。

ところが、真夜中を過ぎたころ、ふとんから起き上がった娘は辺りに気を配りながら、部屋の隅にあった踏み台を持ち出し、天井に吊るしてある鮎を取ろうとしました。背伸びをしても届かないので、思い切ってピョンと飛び上がった拍子にバランスをくずして落ちてしまい、脛にけがをしまいました。

主人とかみさんが驚いて起きてくると、娘は恥ずかしそうに、「私はどういう訳か、小さいころから魚の匂いがかぐと見境がなくなつて、どうしても食べたくなつてしまうのです」と、言いました。



かみさんは、娘の脛が青黒く腫れ上がっているのを見て、急いで打ち身薬をつけてやりました。この家に代々伝わっている打ち身薬は、からしとうどん粉を混ぜ、塩と酢でねったものなので、皮膚に少しでも傷があると強烈にしみるのでした。薬を塗られた娘は、しばらく我慢をしていますが、やがてものすごい声をあげて狐の姿になると勝手口から逃げ出しました。

それから四、五日たったある晩、かみさんが一人で留守番をしていると、この娘が訪ねてきました。

さて、ここでクイズです。

訪ねて来た娘の目的はなんでしょうか。

- ① 魚を狙いに来た
- ② 皮膚の薬をもらいに来た
- ③ 手当てのお礼と、薬を持ってきた

答えは6頁へ

クイズで  
楽しく!

# むかしばなしから「えびな」を知る



関シティプロモーション課 ☎(235)4574

新たな一年の始まりに海老名の歴史に触れてみませんか。市には風土に根付いたたくさんの昔話があります。お話の最後はどのような結末になるのでしょうか。原文を基に、楽しみながら読めるクイズ形式で紹介いたします。

※一部編集しています。



## 笑う閻魔様

大谷の観音様の隣にある閻魔堂には、不思議な閻魔様があります。

閻魔様は、うそをつく舌をぬく、とよくいわれますが、この閻魔様は、悪いことをしてもいけないのに、悪いことをしたと疑いをかけられた人が無実を訴えると、その人に笑いかけるので「笑う閻魔様」といわれ、昔から村人たちに親しまれています。

江戸時代に、天保の大飢饉といつて農作物がとれない年が五年も続いたことがありました。大谷に住むまじしい農家のせがれが、実つ

た稲を盗んだというので、年老いた両親といっしょに村を追い出されることになりました。

身におぼえない若者は、「私はやっていません」と無実を訴えましたが、閻魔堂の前でみんなの裁きを受けることになりました。若者は閻魔様の前に進むと「本当はうそを見破って裁く閻魔様なら、私が稲を盗んだかどうか裁いてください」と訴えました。

この時、閻魔様は、大口をあけて笑い、「本当の悪人を今あぶりだしてやる」そういうと、口から火を三層も吹き出しました。その炎は一番後ろにいた、いつも「正直者よ」といわれている農民の髪をちりぢりと焼きました。その男は苦しみながら「盗んだのは私です」と言うことと気絶してしまいました。

さて、ここでクイズです。

閻魔様の顔は、どのように見えると言いつたか。

- ① いつでも笑っているように見える
- ② やましい心を持った人には怒っているように見える
- ③ どの角度から見ても目が合うように見える

答えは6頁へ